

2025年度（令和7年度）

一般社団法人みなみ阿波観光局 評価会議（議事録・要約）

1. 会議概要

会議名：2025年度（令和7年度）みなみ阿波観光局 評価会議

日時：2026年1月30日（金）14：00～16：00

場所：阿南市 阿南ひまわり会館 3階 レディースルーム

開催時間：120分

進行：沢田 武志（CMO／観光地域づくりリーダー）

2. 会議の位置づけ・目的

本会議は、観光庁 DMO 登録制度に基づき、みなみ阿波観光局の事業実績および運営状況について、事実・数値・成果に基づいて、外部評価委員により、評価を行うとともに、今後の観光地域づくりの方向性を整理することを目的として開催する。

3. 参加者

【評価委員】（敬称略）

中川 雅人（一般財団法人 徳島県観光協会／部長）

松田 佳子（株式会社エアトラベル徳島／室長）

篠原 浩之（阿南信用金庫／常勤理事・業務部長）

坂本 真理子（and you／博士（工学））

【一般社団法人みなみ阿波観光局】

岩佐 義弘（理事長）

清原 裕登（理事長代行）

上野 尊嗣（事務局長）

沢田 武志（CMO／観光地域づくりリーダー）

藤倉 順子（教育旅行推進リーダー）

4. 議題および進行

- ① 開会の挨拶・趣旨説明（理事長 岩佐 義弘より）
観光を取り巻く社会的背景、
DMO 登録制度の動向、
本評価会議の位置づけと進行方針についてなど
- ② 令和6年度事業の振り返り（事務局長 上野 尊嗣より）
【資料①：令和6年度理事会資料】
持続可能な観光計画の策定状況、
サステナブルツアー・体験型観光事業の実施実績
教育旅行・体験学習事業の概要、
情報発信・プロモーション・商談会参加実績
KPI 達成状況（観光消費額、宿泊者数、来訪者満足度 等）
- ③ 令和7年度事業の振り返り（CMO 沢田 武志より）
【パワーポイントによるスライド説明（ツアー実施動画の上映を含む）】
DMO 登録更新の状況および観光庁からの指摘事項
ホームページ改修・情報発信体制の見直し
制度改正に伴う KPI・データ取得体制への対応状況
サステナブルツアーの継続実施状況と参加者動向
県外・都市部からの誘客状況と今後の課題整理
- ④ 教育旅行事業の振り返り（令和6・7年度・教育旅行推進リーダー 藤倉 順子より）
【資料②：教育旅行事業実績】
教育旅行・体験学習プログラムの実施実績
参加校・参加者動向
事業を通じて見えた成果と課題
今後の展開可能性

⑤ 次年度に向けた意見交換（ブレインストーミング 参加者全員） 【別紙】

議題②～④を踏まえた総合的評価

新規誘客とリピーター育成のバランス

サステナブルツーリズムの深化に向けた視点

次年度（令和8年度）に向けた方向性・検討テーマの抽出

⑥ その他情報共有・連絡事項

⑦ 閉会挨拶

理事長代行 清原 裕登より

【別紙】

2025年度（令和7年度）みなみ阿波観光局 評価会議

参考意見集（ブレインストーミング概要）

1. 位置づけ

本資料は、評価会議における議題⑤「次年度に向けた意見交換（ブレインストーミング）」において出された主な意見・示唆を整理したものである。

なお、本意見集は決定事項ではなく、今後の事業検討・方針整理の参考資料として位置づける。

2. 主な意見・示唆（テーマ別整理）

（1）みなみ阿波観光局 観光地域づくり全体に関する視点

- ・数値・KPI の達成状況だけでなく、地域側の受け入れ体制や意識変化も成果として可視化する必要がある
- ・DMO として「何をやらないか」を明確にすることも重要
- ・広域連携と地域独自性のバランスを、今後さらに意識すべき段階に来ている

（2）サステナブルツーリズム・体験型観光について

- ・サステナブルという言葉自体が目的化しないよう、参加者にとっての「体験価値」や「学び」を明確に伝える工夫が必要
- ・小規模・高付加価値型のツアーは、量的拡大よりも質的深化を重視すべき
- ・地域住民の理解と納得感を高めるための説明・共有の場づくりが重要

（3）教育旅行事業に関する意見

- ・教育旅行は短期的な収益ではなく、将来的な関係人口・リピーター創出につながる重要な投資
- ・学校側が求める「学習テーマ」と、地域が提供できる「リアルな体験」の接続をより明確に継続的な受け入れを見据え、プログラムの標準化・マニュアル化も検討課題

（4）情報発信・プロモーションに関する示唆

- ・ホームページや SNS は「情報の量」よりも「誰に何を届けるか」を明確にすべき

- ・観光客向けと、関係人口・事業者向けの情報整理が必要
- ・成果事例・失敗事例の両方を発信することで、地域内外の信頼性向上につながる

(5) 次年度（令和8年度）に向けた方向性に関する意見

- ・既存事業の整理・磨き上げを優先し、新規事業はテーマを絞って展開すべき
- ・人材育成・関係者ネットワークの強化が中長期的な鍵となる
- ・外部評価を積極的に取り入れ、事業改善のサイクルを明確にすることが重要